

栗高さつぽろ会

会報 第二十一号
発行 栗高さつぽろ会
編集 幹事(事務担当) 平野 博昭
電話 〇一一七七一―一八五八
題字 山田 進 (太虚・三二卒) 揮毫

令和元年度総会・懇親会開催

母校や故郷を思い

再会と交流の集い

栗高さつぽろ会の2019(令和元)年度(第26回)総会・懇親会は、去る九月七日(土)午後六時から、さつぽろすみれホテル(中央区北一西二)において開催いたしました。

今年は、例年になく天候不順、気温変動そして残暑が残る中で、栗高同窓会本部役員をはじめ恩師および学校長並びに栗山町副町長の出席を頂き、母校の懐かしい思いや今後の発展を願い、心に残る有意義なひと夜となりました。

総会は、初めに司会進行の立花幹事(四七卒)から、現在の会員数224名・恩師15名、及び本日の出席数58名(会員51名、恩師1名、同窓会本部4名、栗高・栗山町各1名)を報告しました。
そして、この一年間に亡くなられた会員・恩師二名の方々の冥福を祈り、黙祷を捧げました。



総会・懇親会の様子

開会に当たり、卜部喜雄会長(三六卒)から挨拶があり、引き続き栗高同窓会(本部)の本田論会長様、来賓として栗高の高橋尚紀学校長様、栗山町の三浦匠副町長様からそれぞれ挨拶を頂きました。
(挨拶の概要は別掲)
そして、恩師の三好泰宏様、栗高同窓会(本部)の月輪淳裕様(副会長・四七卒)、岡山典弘様(副会長・五十卒)、山本信二様(事務局長・五十卒)をそれぞれご紹介しました。



懇親会(乾杯)

議事に入り、恒例により議長は司会者が務めること
で了承を得て、さつぽろ報告及び議案事項について、事務局の平野幹事(三五卒)から一括説明、併せて小笠原典子会計監事(三八卒)から2018年度会計決算の監査報告があり、質疑応答のあと、報告一「2018年度事業報告及び会計収支決算報告・監査報告」、及び議案一「2019年度事業計画(案)、会計収支予算(案)」並びに議案二「北海道栗山高等学校を支える会への参加について」については、いずれも提案どおり拍手をもって承認・可決されました。
その中で、予算には計上しておりませんが、昨年度に続き本年度も栗高同窓会本部から助成金をいただいていることを報告し、お礼をお礼申し上げたところ。
そして、特に「栗山高校を支える会」への参加について

ト部会長の挨拶



2019年度総会にご参加の皆さん、本当にご苦勞様です。私は、昭和三十六年卒業、三十五年は安保の時代でした。今年喜寿を迎えます。栗山町に御大師山がありその麓の農家で育ちました。現職時代は、高校の教員をしておりまして、今は高校センターの教育研究所の相談所長をしており、学校に行けなくなった子供や母親などの相談を主に行っております。今年、栗山高校は創立90周年を迎えます。十一月九日十時から記念式典、午後祝賀会が行われます。私は、栗高さつぽろ会の会長として出席するつもりでおります。

先輩・後輩との交流を
深めていただきたい

（紙面の関係で一部割愛させていただきました。）

総会における各氏の挨拶

◎ ト部会長（三六卒）

現在の栗山高校は、私の知っている範囲では、一年生は一学級というふう聞いております。しかし、中卒者が少ないことと相まって、栗山高校をこれからどうやって維持していくかというのは、私も同窓生にとっても大きな課題でないかと思っております。先日、私のところに「栗山高校を支える会」にさつぽろ会にもぜひ入っていただきたいという要請があり、今日の総会で、皆さんの意向を聞いて参加するかどうか決めたいと思います。

栗高さつぽろ会は、札幌近郊に住んでいる同窓生が、せつかくの機会だからいっしょに集まって懇親を深めようという主旨でございます。私も、この会に出て気が付いた事があります。一つは、この縦のつながりである先輩達・後輩の学年達、そこをもっともつと交流を進める必要があるなと思えました。それから、意外なつながりというのがそれぞれあるものです。ぜひほかのテーブルに行つて色々交流を深めたいのではないかと思っております。

昨年の今頃は、台風が来て、防風林がバタバタと倒れました。その後すぐ大きな地震が来しました。ちようど今頃は、全道的に停電、いわゆるブラックアウトという言葉を始め聞きました。災害はいつどこでどんなふうになるかわかりません。どうか災害に対する対策を行つて、又、来年ぜひ元気で顔をあわせたいものです。開会の挨拶と致します。

本田同窓会長
の挨拶



◎ 本田同窓会長（四一卒）

栗高への日頃の心づかいに感謝と
総会の盛会をお祝いします

皆様には、高い席からお祝いを申し上げます。元号が変わり、今日で四ヵ月が過ぎ、九月七日を迎えたわけですが、時の流れはどんどんと流れて、こうして皆さんにお会い出来た事を心から嬉しく思います。

栗山高校は、今年90周年を迎えることになりました。日頃から皆様方には暖かいご支援と心遣いをいただき感謝申し上げます。私は、現役の農業をやっております。今年は、どの作物も豊穡でございます。玉ねぎ・小麦良し、色々な作物も本当に実り豊かに育っております。今日は皆さんと色々お話をさせていただきます。総会が盛会に終わることを祈念し、お祝いとお礼の言葉に代えさせていただきます。

では、出席会員から参加に伴う当さつぽろ会の対応について質疑があり、栗山高校を取り巻く厳しい教育環境の中での末長い発展を願ひ、当さつぽろ会として出来る範囲での協力をすることで、同会への参加を説明しました。（会長及び学校長・副町長の挨拶でも説明あり）

以上で総会は終了し、さつそく懇親会に入りました。

今年度も出席者全員が起立して校歌の斉唱を行い、CDによる伴奏に合わせて歌詞をかみしめ青春を懐かしみながらの交流のスタートとなりました。

そして乾杯の音頭を恩師の三好先生に挨拶を兼ねてお願いし、元気なご発声に併せて全員が再会を祝して「乾杯！」で杯を交わしました。（挨拶は別掲）

ここまで予定の時間を若干オーバーしましたが、いよいよ懇親の集いとなり、各テーブルではビールや料理を囲んで久し振りの再会に、近況や懐かしい話に花が咲き、会場は和やかな雰囲気楽しい交流が続きました。

恒例の抽選会となり、今年も栗山町特産の品々を用意、併せて同窓会本部からのお酒のご寄贈もあり、豪華な景品となりました。

女性幹事の進行により、会長や来賓等に抽選人をお願いし、抽選箱から引き出した番号を幹事が読み上げると、早速会場から当選の歓声が上がり、テーブルからは喜びや驚きそして拍手などで一層盛り上がりしました。



懇親会(抽選会)

引き続き、好評のカラオケに入り、のどに自慢の七名の素晴らしい歌と歳を重ねた味のある歌唱で、会場からは大きな声援と拍手が続きました。

予定時間の関係から残念ながら昨年より少ない出場者となりました。（カラオケ出場者の状況は別掲）

いつの間にか楽しい懇親が経過し閉めの時間となり、乾杯の音頭を出席会員最高齢の尾崎力理事（三十卒）にお願いし、出席者の健勝とさつぽろ会の発展そして再会を祈念し、「乾杯」で杯を交わしました。

会員の高齢化により残念ながら大先輩の方々の出席が少なくなり、併せて会員全体の出席者も減少傾向です。皆様方の暖かいご支援・ご協力をお願いするとともに、ご意見・ご要望等がありましたらお寄せ下さい。

懇親会での乾杯・挨拶



乾杯の様子



尾崎理事の
閉めの乾杯



恩師三好先生の
初めの乾杯

総会における各氏の挨拶

(紙面の関係で一部割愛させていただきました。)

◎ ト部会長(三六卒)

先輩・後輩との交流を 深めていただきたい

2019年度総会にご参加の皆さん、本当にご苦勞様です。私は、昭和三十六年卒業、三十五年は安保の時代でした。今年喜寿を迎えます。栗山町に御大師山がありその麓の農家で育ちました。

現職時代は、高校の教員をしておりまして、今は高校センターの教育研究所の相談所長をしており、学校に行けなくなった子供や母親などの相談を主に行っております。今年、栗山高校は創立90周年を迎えます。十一月九日十時から記念式典、午後祝賀会が行われます。私は、栗高さっぽろ会の会長として出席するつもりでおります。

ト部会長の挨拶



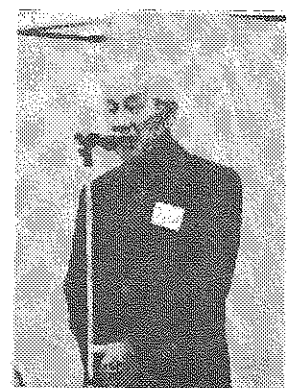
現在の栗山高校は、私の知っている範囲では、一年生は一学級というふう聞いております。しかし、中卒者が少ないことと相まって、栗山高校をこれからどうやって維持していくかというのは、私も同窓生にとっても大きな課題でないかと思っています。先日、私のところに「栗山高校を支える会」にさっぽろ会にもぜひ入っていただきたいという要請があり、今日の総会で、皆さんのご意向を聞いて参加するかどうか決めたいと思います。

栗高さっぽろ会は、札幌近郊に住んでいる同窓生が、せっかくの機会だからいつしよに集まって懇親を深めようという主旨でございます。私も、この会に出て気が付いた事があります。一つは、この縦のつながりである先輩達・後輩の学年達、そこをもっともつと交流を進める必要があるなと思いました。それから、意外なつながりというのがそれぞれあるものです。ぜひほかのテーブルに行つて色々交流を深めたいのではないかと感じております。

昨年の今頃は、台風が来て、防風林がバタバタと倒れました。その後すぐ大きな地震が来しました。

ちようど今頃は、全道的に停電、いわゆるブラックアウトという言葉が始まりました。災害はいつどこでどんなふうにかかるかわかりません。どうか災害に対する対策を行つて、又、来年ぜひ元気で顔をあわせたいものです。開会の挨拶と致します。

本田同窓会長の挨拶



◎ 本田同窓会長(四一卒)

栗高への日頃の心づかいに感謝と 総会の盛会をお祝いします

皆様には、高い席からお祝いを申し上げます。元号が変わり、今日で四ヵ月が過ぎ、九月七日を迎えたわけですが、時の流れはどんどんと流れて、こうして皆さんにお会い出来た事を心から嬉しく思います。

栗山高校は、今年90周年を迎えることになりました。日頃から皆様方には暖かいご支援と心遣いをいただき感謝申し上げます。

私は、現役の農業をやっております。今年は、どの作物も豊穡でございます。玉ねぎ・小麦良し、色々な作物も本当に実り豊かに育っております。

今日は皆さんと色々お話をさせていただきます。総会が盛会に終わることを祈念し、お祝いとお礼の言葉に代えさせていただきます。

◎ 高橋 学校長

栗山高校の間口維持に努力 引き続き「支援を

皆さん、お晩でございます。
皆様には、日頃から御支援をいただきましてありがとうございます。

先ほど、会長からお話がありました。本年度本校は90周年を迎えます。昭和四年に女学校として発足して以来、昭和二十四年には栗山高等学校となり、その後昭和三十九年には普通科六間口、定時制普通科一間口、定時制農業科一間口、家政科一間口の九間口もある大きな学校でした。それが五間口、そして四間口と減り、農業科・家政科や定時制普通科も閉科となりました。
そして、平成二十五年には、二間口となっていました。今年度は、募集しましたが三十三名しか入学者がいませんでした。

岩見沢方面に流れた数が非常に多くございまして。何とか今年は、生徒の募集に力を入れるということで、教育委員会といっしょに栗山や岩見沢の中学校、さらに教育局などを回らせていただきました。今年は、今のところ四十一名を越える二間口になりますが、その人数は確保できそうですが、まだ油断は出来ません。

高橋 学校長



九月三日に道教委から高校配置計画が発表されました。二間口で募集することになりました。そういう危機的状況の中ですが、栗山町からはたくさんの援助を頂いております。栗山高校を支える会、それから栗山高校魅力づくり委員会、それと支援検討委員会という三つの組織を作って頂いております。模擬試験や資格試験の受験料の半額補助、それから、青少年海外派遣事業である少年ジェットの栗高卒の拡大二人枠を設けていただき、部活動遠征費の補助も頂いております。
生徒は、部活動で活躍しております。
今年も弓道が全道大会に出場、水泳でも生徒が全道大会に出場、それに、書道の生徒が全国大会の佐賀県に遠征し活躍しております。
私も、栗山高校を盛り上げていくために頑張っていきたいと思っております。どうぞご支援の程よろしくお願い致します。

◎ 三浦 栗山町副町長

時代に誇れるふるさと栗山の 町づくりを進めています

皆様、お晩でございます。

本来でございますら佐々木町長がご祝辞を申し上げるところですが、生憎別の公務で出席が叶いませんでしたので、代わりましてご挨拶をさせていただきます。

本日は、二十六回目を迎えます栗高さつぽろ会が、このように多くの皆さんの参加のもと、盛会に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

また、ト部会長様はじめ会員皆様には、日頃から栗山町の発展のためさまざまな場面におきましてお力添えを頂いておりますことを心から感謝を申し上げます。

さて、栗山町の近況ということでご報告させていただきます。

昨年の九月五日に台風21号が北海道付近を通過しまして、栗山町も強風が吹き荒れまして町内各地で倒木の被害が発生したところで、その翌日の六日午前三時過ぎに胆振地震が発生しまして、栗山町も震度5弱の大きな揺れを観測したところで、

三浦 副町長



その後、停電が起きてまして十六ヶ所の避難所を設置し被害をされた町民の受け入れを行いました。翌七日の午後十時半まで丸二日間停電の状況でした。
この被害状況ですが、台風につきましたは、倒木により各地で道がふさがれ、市街地では保育所の遊具が壊れたり、農家ではビニールハウスの被覆被害、そして公共施設の屋根が剥がれたなどです。
地震においては、液状化の状況で町道に陥没や亀裂が入ったり、農地ののり面が崩壊したり、さらに上下水道の管が破損したりという被害状況です。町の執行予算額としては、昨年度災害復旧が一億七千万円、今年も六千万円で合わせて二億三千万円ほどの被害状況となったところです。
近年、全国各地で災害が多発しており、本町におきましても、停電対策とか町民の方への伝達手段などの災害対策をさらに進めて行きます。

農業の状況ですが、昨年度は六月から七月にかけて長雨と日照不足そして台風や地震の影響もあつて農作物は通して不作の年となったところで、今年度は、天候にも恵まれて農作物の生育状況は大変良好ということで、このまま行きますと豊作の年になるのかなと考えております。

又、街づくりですが、栗山の新時代を切り開き誰もが笑顔で暮らしている街づくりを進めていくために、町長の公約である五十七の事業を含めた第六次の総合計画が今年度からスタートしております。この中で、一番大きな問題は、人口減少対策であります。栗山の人口は1万1千700人の状況で、このままで行きますと令和十年には一万人を切る見込みとなっており、この状況を打破していくために一つの事業として、札幌から北長沼を通って入ってきますと馬追橋という橋が架かっています。北海道の橋ですが、今この架け替え工事を行っており、令和六年までに完成する予定です。この先アンダーパスを潜って丁字路を曲がり駅までの新町通を北海道の街路整備事業として、それから、周辺の環境整備は、町の事業として今後五年間進めていくことで、賑わいを創出し栗山に定住していただける方をどんどん増やしていく取り組みをこれから進めていく予定です。
又、地域おこし協力隊制度を本町においても積極的に活用しており、平成二十七年度から十一

栗山町の開基百三十年

おめでとございます。

議案 1 2019年度事業計画(案)及び会計収支予算(案)

(1) 2019年度 事業計画(案)

- 2019年度役員会開催
2019年6月1日(土)17:00～ さっぽろすみれホテル
- 2019年度(第26回)総会開催
2019年9月7日(土)18:00～ さっぽろすみれホテル
- 2019年度幹事会(事務局会議)
年3回(4月・8月・12月 予定)
- 会報(第21号)の発行 2019年11月中旬

(2) 2019年度会計収支予算(案)

収 入				
科 目	予 算 額	前年度予算額	備 考	
1. 年 会 費	170,000 円	178,000 円	総会出席 70名 70,000 円 振込等 120名 100,000 円	
2. 出席者会費	420,000	445,000	役員会 20名 70,000 円 総会 70名 850,000 円	
3. 寄 付 金	30,000	25,000	総会来賓 6名	
4. 補 助 金	0	0		
5. 利 息	10	9		
6. 前期繰越金	109,750	89,501		
合 計	729,760	737,510		

支 出				
科 目	予 算 額	前年度予算額	備 考	
1. 懇親会費	450,000 円	470,000 円	役員会 20名 70,000 円 総会 76名 380,000 円	
2. 印刷製本費	40,000	40,000	総会案内・資料、会報印刷	
3. 通信運搬費	100,000	100,000	郵送料、切手、ハガキ	
4. 賞 品 費	40,000	35,000	抽選会賞品代	
5. 雑 費	50,000	50,000	封筒、ラベル、コピー用紙、 振込手数料、会議室使用料ほか	
6. 予 備 費	49,760	42,510		
合 計	729,760	737,510		

議案 2 「北海道栗山高等学校を支える会」への参加について

この度、「北海道栗山高等学校を支える会」から参加の要請がありました。栗山高等学校を取り巻くきびしい教育環境のもと、「同支える会」の目的等に賛同し、「栗高さっぽろ会」として参加し活動に協力したい。

(参考) 1. 「北海道栗山高等学校を支える会」の概要

平成18年11月にこれからの栗山高校の閉校確保と南空知高等教育の拠点化を図り、生徒や保護者が選択し得る高校づくりを推進することを目的として設立し、活動を行ってきた。この間、平成22年度及び25年度においては、北海道教育委員会の公立高等学校配置計画案の中で栗山高校の閉校の方針が示された段階で、当会が発起人の立場を担い町を挙げての要請行動を行うため、栗山町長を会長とする「栗山町高校問題協議会」を発足し、道教委に対し閉校維持に向けた活動を展開してきた。この度、支える会本来の設立目的を鑑み、活動を活性化し新たな組織体制と事業計画のもと、栗山高校存続に向けた取組を展開してまいりたい。
(支える会会長から役員あて本年度総会開催案内から抜粋) 令和元年6月21日
会長 栗山商工会議所事務理事 事務局長 栗山町教育委員会教育長

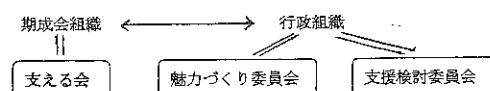
2. 北海道栗山高等学校支える会会則の1部抜粋

第2条(目的)
北海道栗山高等学校の閉校確保を図るため、高等学校教育のあり方の検討協議と陳情要請並びに栗山高校に対する提言を行い、もって地域が求める有能な人材の輩出による地域活性化を目的とする。

- 第3条(事業)
- 栗山高校のあり方に関する提言活動
 - 栗山高校の閉校確保に向けた陳情要請活動
 - 栗山高校進学に向けた調査及び啓発活動

第4条(組織)
本会は、第2条の目的に賛同する者を理事として組織する。

3. 栗山町における栗山高等学校支援・魅力づくり体系図



総会資料(報告・議案)

報告 1 2018年度事業報告及び会計収支決算報告

(1) 2018年度 事業報告

- 幹事会第1回(事務局会議)開催
2018年4月26日(木)12:00～ さっぽろすみれホテル9名出席
- 2018年度役員会開催
2018年6月2日(土)17:00～ さっぽろすみれホテル22名出席
- 幹事会第2回(事務局会議)開催
2018年8月3日(金)11:30～ さっぽろすみれホテル7名出席
2018年度総会・懇親会案内郵送(会員・恩師全員、来賓)
- 2018年度(第25回)総会・懇親会開催
2018年9月1日(土)18:00～ さっぽろすみれホテル
会員、来賓(恩師含む)60名出席
- 会報(第20号)発行
2018年11月2日(金)会報全員に郵送、同窓会本部・東京支部に郵送
- 栗高同窓会誌「聚楽」(卒業特集)2019年3月1日付第39号
2019年3月7日(木)役員に送付
当会から寄稿 山本竹市 様(37年卒)
- 会員及び恩師のご逝去
2018年5月 故 孤 塚 英 隆 様(恩師)S37.4~45.3(報告済み)
2019年6月 故 永 坂 后 様(35年卒)

(2) 2018年度会計収支決算報告

収 入				
科 目	予 算 額	決 算 額	備 考	
1. 年 会 費	178,000 円	150,382 円	会員 延べ161名	
2. 出席者会費	445,000	382,000	役員会 22名 77,000 円 総会 51名 255,000 円	
3. 寄 付 金	25,000	60,000	総会来賓 8名 55,000 円 恩師 1名 5,000 円	
4. 補 助 金	0	30,000	栗高同窓会から助成	
5. 利 息	9	0		
6. 前期繰越金	89,501	89,501		
合 計	737,510	661,883		

支 出				
科 目	予 算 額	決 算 額	備 考	
1. 懇親会費	470,000 円	375,500 円	役員会 22名 77,000 円 総会 60名 298,500 円	
2. 印刷製本費	40,000	31,210	総会案内、総会資料、会報、 各種資料コピー代	
3. 通信運搬費	100,000	79,410	郵送料 切手、ハガキ	
4. 賞 品 費	35,000	34,048	抽選会賞品代	
5. 雑 費	50,000	31,915	封筒、ラベル、コピー用紙、 振込手数料、会議室使用料ほか	
6. 予 備 費	42,510	0		
計	737,510	552,083		
7. 次期繰越金	0	109,750		
合 計	737,510	661,833		

(3) 2018年度監査報告

- 監査実施年月日 2019年6月1日
- 監査項目 現金の出納に関する書類及び帳簿証拠を監査の結果、適正に処理・執行されていることを認めます。
会計監事 小笠原典子
会計監事 中西晴子

三好恩師の
乾杯と挨拶



◎三好恩師の乾杯と挨拶
魅力ある学校に期待
皆さんお晩でございます。
私は、昭和三十四年から三十六年という非常に短い期間でありましたが、新卒教員として在籍しました。全道には五間口ぐらゐの学校でも、地方の学校は一間口ぐらゐになっているのが非常に多くなくなっております。しかし、やはり学校の魅力というものがないと、ますます学校も元気がなくなっていくと思います。この元気を出すということについては教員も非常に責任があると思います。校長先生には教員にはつばをにかけて、岩見沢などに生徒が流れないようにやってもらいたいと考えております。
それでは、栗高さっぽろ会の前途に発展があるよう祈念して乾杯します。

早川 様
(33卒)



カラオケの特集
―年輪を重ねた歌唱力―

◇栗高同窓会東京支部からのメッセージ
◎桂 正洋栗高同窓会東京支部会長
(三十七年卒)
本年度の総会・懇親会の開催を心よりお祝い申し上げます。
多くの仲間が集い、楽しいひと時を過ごされることと存じます。
さっぽろ会の益々のご隆盛を祈念いたします。
◎奥田芳博栗高同窓会東京支部副会長
(四十四年卒)
懐かしい札幌での「栗高さっぽろ会」のご盛会になることと思います。
皆様の御多幸を祈念しております。

長沢 様
(35卒)



中川 様
(37卒)



山崎 様
(34卒)



植田 様
(32卒)



本田 様
(41卒)



山本 様
(37卒)



◇ 生徒の状況

(令和元年5月1日現在)

1. 在籍生徒数

学 年	男 子	女 子	合 計	前年比
第1学年	17	16	33	-19
第2学年	23	25	48	-7
第3学年	24	28	52	-9
合 計	64	69	133	-35

2. 出身地域別生徒数

	1年	2年	3年	合計
栗 山 町	19	36	27	82
栗 山 町	1	3	8	12
長 沼 町	0	1	0	1
南 幌 町	2	2	5	9
旧 栗 沢 町	4	0	3	7
そ の 他	7	6	9	22
合 計	33	48	52	133

※その他の内訳

1年 (7) ...夕張2 岩見沢5
2年 (6) ...夕張1 岩見沢3
3年 (9) ...夕張2 岩見沢7

早来1 道分1

◇ 進路の状況

(平成31年3月31日現在)

1. 進路希望と合格・内定状況

		大学	短期大学	看護学校	専門学校	公務員	就職(含む)	その他	合計
男子	希望者数	11	0	0	18	1	13	0	43
	合格または内定数	11	0	0	18	1	13	0	43
女子	希望者数	2	1	1	10	0	4	0	18
	合格または内定数	2	1	1	10	0	4	0	18
希望者の合計		13	1	1	28	1	17	0	61
合格または内定者合計		13	1	1	28	1	17	0	61

2. 進路決定状況

種 別	大 学	短期大学	看護学校	専門学校	公務員	就職(含む)	合 計
男 子	11	0	0	18	1	13	43
女 子	2	1	1	10	0	4	18
合 計	13	1	1	28	1	17	61

3. 進学者内訳

進学先	地域	道 内		道 外		合 計
	性別	男子	女子	男子	女子	
国公立大学		0	0	1	0	1
私立大学		10	2	0	0	12
短期大学		0	1	0	0	1
看護学校		0	1	0	0	1
専門学校		18	10	0	0	28
合 計		28	14	1	0	43

4. 就職者職業分類内訳

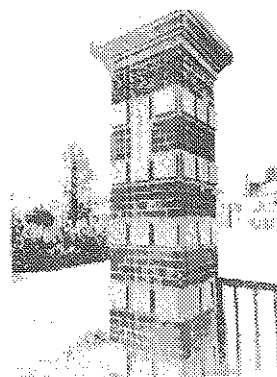
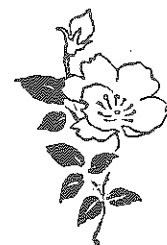
職 種	男 子	女 子	合 計
専 門 ・ 技 術	3	0	3
事 務	0	3	3
販 売	0	0	0
サ ー ビ ス	0	1	1
保 安	1	0	1
農 林 漁 業	1	0	1
生 産 工 程	8	0	8
運 送	0	0	0
建 設	1	0	1
そ の 他	0	0	0
合 計	14	4	18

5. 就職者地域別内訳

地 域	男 子	女 子	合 計
栗 山 町	7	0	7
栗 山 町	2	0	2
長 沼 町	0	0	0
南 幌 町	0	0	0
岩 見 沢 町	2	3	5
南 空 知 町	0	1	1
札 内 町	2	0	2
他 道 内	1	0	1
道 外	0	0	0
合 計	14	4	18

北海道栗山高等学校の概要

(栗高を支える会総会資料から転載)



栗高さっぽろ会役員

(平成三十年九月から二年間)

顧問	梨本 健(三二)	小柄三也(三三)
会長	山崎市郎(三四)	谷口榮一(三五)
副会長	下部喜雄(三六)	伊藤尚人(三〇)
正重 稔(二九)	福島 堅(三二)	杉本省三(三四)
佐野至孝(三一)	川村俊明(三六)	太田直行(三八)
古林幸男(三三)	尾崎 力(三〇)	佐藤忠義(三三)
本間喜彌雄(三五)	福田紀之(三五)	中川 昇(三七)
猪熊輝夫(三七)	黒澤 晶(四四)	白川洋三(四六)
馳 了(二八)	渡部拾子(三五)	加藤静江(三六)
小林栄樹(三二)	伊藤進(三八)	荒川美和子(三八)
川口孝太郎(三四)	堤 益三(四五)	立花裕美子(四七)
羽生聖子(三六)	鳥庭健二(四七)	中西晴一(四五)
伊藤進(三八)	平野博昭(三五)	矢野寄子(三五)
三浦文子(三六)	土門由記(三八)	藤原隆(四二)
土門由記(三八)	小笠原典子(三八)	
藤原隆(四二)		
小笠原典子(三八)		

(注) 幹事は事務局を担当

出席者一覧

2019年度栗高さっぽろ会総会・懇親会出席者一覧 (会員クラス順)

区分	氏 名	備 考	区分	氏 名	備 考
27卒	小林 晴吉	会長	36卒	小 林 晴 吉	会長
28卒	ト 部 喜 雄	理事		羽 生 聖 子	理事
29卒	向井地 孝行	幹事		三 浦 文 子	幹事
30卒	尾 崎 力	理事		加 藤 静 江	幹事
31卒	山 田 進	6,000円入金			
32卒	小 林 栄 樹	理事			
	福 島 堅	副会長	37卒	中 川 昇	理事
	高 橋 守			大 地 満 代	1,000円入金
	植 田 弘 志			猪 熊 輝 夫	副会長1,000円入
33卒	太 田 美 恵 子			山 本 竹 市	1,000円入金
	小 柄 三 也	顧問		今 枝 誠 二	幹事
	小 原 昇			伊 藤 茂 之	幹事
	佐 藤 忠 義	理事	38卒	太 田 直 行	副会長
	早 川 初 夫			小 笠 原 典 子	会計監事
	西 田 富 子			伊 藤 進	理事
	古 林 幸 男	副会長		荒 川 美 和 子	幹事
	菊 池 藤			土 門 由 記	幹事
	工 藤 芳 久		42卒	藤 原 隆	幹事
	岡 田 通 子	6,000円入金	46卒	堤 益 三	理事
34卒	山 田 匡 子		46卒	白 川 洋 三	理事
	杉 本 省 三	副会長	47卒	鳥 庭 建 二	理事
	大 塚 容 子			立 花 裕 美 子	幹事
	山 崎 市 郎	顧問2,000円入金	同窓会	(本部)	
35卒	谷 口 榮 一	顧問	41卒	本 田 諭	会長
	長 沢 英 二		47卒	月 輪 淳 裕	副会長
	本 川 道 定		50卒	岡 山 典 弘	副会長
	遠 藤 俊 郎		50卒	山 本 信 二	事務局長
	伊 藤 勝 也			三 好 泰 宏	S24.4-26.3
	西 野 千 郷			来 賀	
	福 田 紀 之	理事		栗 山 町	
	平 野 博 昭	幹事		三 浦 匠	副司理
	矢 野 寄 子	幹事		学 校 長	高 橋 尚 紀
					228.4-
					会員51 本部4
				計	58名
					恩師1 来賓2

栗高同窓会役員(抜粋)

会長	本 田 諭(四一)	中島孝幸(四五)
副会長	山崎信治(四三)	武岡和幸(四九)
	月輪淳裕(四七)	山代賢治(五一)
	岡山典弘(五〇)	
事務局長	山本信二(五〇)	
会計	高田威彦(四一)	
会計監査	丸山紘司(三七)	松下早苗(五三)

栗高同窓会東京支部役員(抜粋)

会長	桂 正洋(三七)	(平成二十九年年度総会から二年)
副会長	松本洋幸(四〇)	楠 文利(四二)
	太田見知代(四三)	
事務局長	奥田芳博(四四)	
会計監査	元田豊治(四五)	岡崎栄子(四五)
事務局委員	瀬尾 明(四三)	辻 裕 博(四四)
	久世郁夫(四六)	佐藤直子(四八)
	竹内志保(六三)	安嶋陽子(六三)

□恩師・会員からのお便り

敬称を省略させて頂きます。

総会出欠のご回答の際に、寄せて頂いた近況等を掲載しました。一部省略した部分及び記載漏れ等があると思いますが、ご容赦ください。

(一)内は、在職年数又は卒業年次です。

恩師

いつも丁寧なご案内をいただき感謝しております。都合により欠席させて頂きました。皆様のご健勝と御会のますますのご発展をお祈りいたします。

北濱義仁(29.8~41.3)

私齢八十五歳ともなりますと心身共に少々ガタがきていますが、週一ゴルフまだ楽しんでおります。「老人は静かに消え去るのみ」が、私の終活信条ですので出席遠慮させていただきます。悪しからず。

ご出席皆さんの今後のご健勝願っています。

武田賢悦(34.4~45.3)
体調にやや不安がありますので欠席致します。栗高の発展とさっぽろ会の一層の盛なることを祈ります。

三好泰宏(34.4~36.3)
八十三歳になりました。元気に趣味・活動に動んでいます。ゴルフはまだ十八ホール徒歩でプレーしています。ターゲットは九十歳です。



部活動の状況



1 部・同・同好会活動入部状況

<R元. 5.1現在>

	1年生	2年生	3年生	合計
体育系	15名	12名	12名	39名
文化系	7名	11名	13名	31名
加入合計	22名	33名	25名	70名
在籍数	33名	48名	52名	133名
%	66.7%	68.8%	48.1%	52.6%

硬式野球	8	バドミントン	7	硬式テニス	9
サッカー	10	弓道	5	吹奏楽	6
美術	6	書道	13	放送	6
			計		70

祝 栗山高等学校創立九十周年

昭和四年に公立栗山実科高等女学校として開校して以来、本年度創立九十周年を迎えました。

昭和二十三年には、北海道栗山高等学校となり、これまで地域に根付き多くの卒業生を輩出してきました。校舎も、二度にわたり改築、現在三代目の校舎です。

本年十一月九日(土)には、記念式典及び祝賀会が盛会に開催されました。

母校の沿革史(概要)

私立栗山裁縫学校時代

大正5年11月7日 設置認可

村立栗山高等裁縫学校時代

大正13年5月23日 設置認可

村立栗山実科高等女学校時代

昭和4年3月12日 設置認可

昭和7年3月25日 第1回卒業式

同窓会設立(3月6日)

北海道栗山高等女学校時代

昭和18年4月1日 改名(2ヵ年制中学校)

北海道栗山高等学校時代

昭和23年4月1日 道立移管・男女共学

昭和24年3月18日 第1回卒業式

昭和24年10月15日 開校20周年記念式典

昭和25年3月31日 定時制普通科併置認可

昭和31年4月1日 定時制農業科併置認可

昭和48年12月23日 新校舎へ移転

昭和54年10月14日 開校50周年記念式典

昭和60年3月31日 定時制普通科閉科

昭和61年3月31日 定時制農業化閉科

平成4年3月31日 家政科閉科

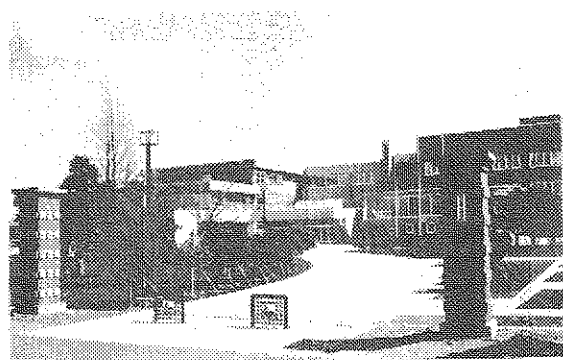
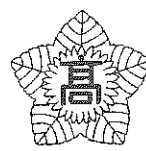
平成11年10月16日 開校70周年記念式典

平成15年10月26日 新校舎へ移転

令和元年11月9日 創立90周年記念式典

<校章の由来>

池田鑑太郎氏(旧職員)による卒業。本町の地名にちなんで、男性的な「栗」の木の五葉に、女性の優美と清純を表す旧校章の「麻子」の花を合わせて、優雅と協調を象徴。また、その樹の花の雄穂と雌穂の並び、堅忍不拔の北海道の開拓精神を示すとともに、五葉の星形に北の地「北土」を表現している。



現在の校舎(3代目)

小原道城(昇三十三卒)氏の文化庁長官賞及び北海道功労賞の受賞 おめでとうございます

平成三十一年三月文化振興や国際文化交流に貢献したことで文化庁長官賞を受賞。令和元年八月には、国際書道協会会長であり、書道美術館開設などに尽力したこと、今年の北海道功労賞を受賞されました。

会員

当面は健康回復に専念していきたいと思ひ、努力中です。

藤原修子(二八)

一年が過ぎるの早いですね。

皆様お元気でご活躍の様子何よりと思います。

動のボランティアから静のボランティアの傾聴ボランティアをさせて頂いています。

石川ミツ(二九)

令和の時代を迎え、健康で居られる事に感謝です。老人クラブを始め、介護予防教室、お達者クラブ、パークゴルフは、皆さんにお逢いするのが楽しみで、色々な会に入り頑張っています。

会員皆様の御健康と御多幸をお祈り申し上げます。

三條美奈子(二九)

母の一周忌法要のため欠席致します。皆様 楽しい時間をお過ごし下さい。

伊藤尚人(三〇)

私自身は元気にしております。

先日、新篠津ゴルフ場で、シニアティからでありましたが79、80、80と三回連続しました。



尾崎 力 (三〇)
毎朝 朝一時間三十分位歩いています。

高原市太郎 (三〇)
今年こそはと思い出席を楽しみにしておりました。昨年末より四十日程入院し快復したと思っておりましたが、中々快復はしていないようです。検査結果、八月上旬再入院の状況に変化したので、欠席することになりました。

福田郁夫 (三〇)
身体の具合が悪く欠席します。

湯浅豊治 (三〇)
今後ともよろしくお願い致します。

皆様方によろしく。

関井澄子 (三〇)
足をケガして、歩くのが困難なので欠席します。皆様によろしくお伝え下さい。

佐野至孝 (三一)
元気に過ごしております。

ご盛会をお祈りします。

山田 進 (三一)
お便り・御案内厚く御礼申し上げます。

当日を楽しみにしています。

植田弘志 (三一)
健康に留意し、現在もパークゴルフ、マージャン、時にはカラオケに励んでいます。

田中政忠 (三二)
健康の為に毎日500m位歩いています。

毎日、薬は食膳食後と死ぬまで続けると言われています。皆様お元気で。

白山 正 (三二)
札幌市友会の観光ボランティア、開拓の村等での活動で多忙です。

今年は、野幌森林公園に熊が出没し、「村」にも影響し、急遽行事を取りやめたこともあり、総会に参加できず申し訳ありません。

堀野浩子 (三二)
最近、体調が悪く中々出席できない状態です。

会のご発展をお祈り申し上げます。

古林幸男 (三三)
令和元年六月、南九州知覧特攻記念館に行き、今更戦争の悲惨さを思い知らされました。

平和の大切さを実感しました。

戦争はしない、という政治指導者が世界で多くなることを願っています。

私、健康維持でスポーツジム通いをしていて昨今です。

菊池 醇 (三三)
町内会、町連の役員を辞め、老人クラブに参加、カラオケ・麻雀をやっています。

小原 昇 (三三)
①小原道城書道美術館は、第19期特別展「明治・大正の政治家の書展」只今開催中、(十一月三〇日まで) 北二西二です。

②昨年、東京銀座で開催した第十六回小原道城書作展で、平成三〇年度文化庁長官表彰を受けました。これを記念して来年七月一日〜五日まで、札幌市民ギャラリーでの第十七回小原道城、書と水墨画の個展を準備中です。

早川初夫 (三三)
今年は久しぶりに出席できます。皆様にお会い出来ることを楽しみにしています。

今のところは、体調も良くパークゴルフを楽しんでおります。年齢のことを考えて無理をせず、マイペースで楽しむことが出来るスポーツの一つとしてお勧めいたします。

西田富子 (三三)
私は、昨年からミニ体操を始めました。これが結構楽しめまして、この歳になつて筋肉貯金をしています。

今年も出席できる体力に感謝。

太田美恵子 (三三)
皆様にお会いできる日を楽しみに致しております。

岡田 颯 (三三)
カナダ、マクワイン大学の学生さん達をお世話した事がきっかけで、終わった後も学生さん達と交流させていただいております。

今年も十二月カナダ行きを計画しております。



川上祐司 (三三)
成年期・壮年期の回想

私は、四十五年間、学校と教職員組合で働いてきました。最終の十二年間は、日本教職員組合で中心的任務を担い、業務執行の任に当たってきました。

教育の職場には、子ども達の未来の教育改革・教育内容の充実・長時間労働からの解放・待遇改善・教育の条件整備など、課題の山積です。

課題の解決は、政府・文部科学省に要求するだけでは、不十分です。なにより大切なことは、教育職場の組合活動なくして解決できないと言うことです。

このことを学校に勤務した時から考えていました。教育運動に専念すると決めたのは、学校教育を少しでも「良くしたい」という一念からです。

組合活動中の究極の目標は、学校教育こそ福祉と並ぶ社会の中心課題として認められることにおいてきました。

しかしこの高い目標の達成には、六十五歳の退任時期が迫り途中で時間切れとなり、後継者に仕事を引き継ぐことになりました。

あれから早くも十五年が経過しています。

横井 強 (三三)
前々から決まっていた行事と重なり出席出来ません。

相変わらず、唯一の趣味「囲碁」を楽しんでおります。

黒田 功 (三三)
今年も出席できず残念。(療養中)

工藤芳久 (三三)
今年は今和元年、私も八十路に元気に到達した自分を褒めたいと思いますが、丈夫に生んでくれた両親にも感謝です。

これからの元気で好奇心と年齢相応の行動力で、常に何事もプラス指向で楽しく前進です。目標は卒寿！——合掌——

今川忠良 (三三)
薬を飲みながらも、何とか生活しています。酒も飲めなくなり、ウォーキングしたり、四十年信仰し30〜50歳代の霊波の教会の若者に励まされ、教

会参加が多く、元気でいます。

杉本省三 (三四)
昨年十二月に左頸動脈の手術、現在は変わらず毎晩の酒と週一のゴルフを楽しんでいます。

大塚容子 (三四)
歳ごとに体力の衰えを感じます。

車椅子の夫を介護し、家事・家庭菜園にも励んでおります。

夏休み恒例の家族旅行はとりやめ、娘婿の運転で、栗山・長沼・砂川の街をドライブしてもらいました。なつかしい田園風景に青春を想い、これが最後(?)の心で帰途につきました。



田村 勲 (三四)
ふた昔(二十年程)前に定期購入しておいた「別冊文芸春秋」を読んでいます。

古本の匂いを嗅ぎながら頁を開くと、予想していたものにひと味何か加わった感じがして、不思議です。「ノモンハン」の夏「半藤一利」などは、その感が強いものでした。「血脈」佐藤愛子は、別の意味で先に進みました。只今1998 Winter NO222というような按配です。

山田匡子 (三四)
二ヶ所のボランティア活動と太極拳は十五年間続いています。スポーツジムに通って二十年になります。

何も無い時は、バックや巾着等を作り、ボランティア団体の資金にしています。結構忙しい毎日なのです。

遠藤俊郎 (三五)
先々月(五月)は、山陰地方(松江・出雲・米子)を旅行し、今秋は関東方面への旅を二つ予定しています。

本間喜彌雄 (三五)
残念ながら妻の姉の法事が計画され、一緒に出かけることになり、今年の「栗高さっぽろ会」は欠席します。皆さんによろしく。ご盛会を願っています。

鈴木 茂 (三五)
体調未だ快復せず、残念ですが欠席します。栗高会の今後の益々のご繁栄と皆様のご健勝とご多幸をお祈り致します。

長手禧治(三五)

今回は、おふくろの法事を次週に控えて、何かと忙しくて欠席となります。

現在は、シルバー人材センターよりの仕事で、週2、3回程、朝・晩と駅駐輪場で働いています。

6、7月に外壁の張替え工事があり、この後整理に、花畑、野菜畑の手入れやらで大変、遊びの方では、公私にパイク、そして登山、さすがに腰を痛めてしまい、今は少しづつです。

松本紀幸(三五)

先約有り欠席します。盛会を祈念します。

松岡良行(三五)

元気になっています。皆様のご健勝を祈念します。

笹森忠幸(三五)

体調が少しづつ元に戻ってきましたが、まだまだです。皆様によろしく。

杉山靖(二五)

盛会を祈念しています。

紙捷江(三五)

一日一日が過ぎるのは早いですね？

歳を取ると、ときめきがなくなるとか、人生先が見えてきました今日この頃、菜園 ガーデニング、刺しゅうと頑張っています。同期の皆様によろしくお伝え下さい。

星久美子(三五)

元気です。今回は行事と重なるため欠席します。残念です。次回楽しみにしています。

卜部喜雄(三六)

「栗高さつぽろ会」の会長になっています。会員数の増大が課題です。最近の卒業生に声をかけましょう。栗高の存続も、特別な対策が必要です。交流を深め考え合いたいもの。

向井地春行(三六)

腰痛も良くなり、毎日のウォーキング、時々ゴルフ旅行、書道等忙しくやっています。今後も体力の続く限り楽しむつもりです。

深井康平(三六)

相変らずへボ基と仲良く、生活習慣病とも仲良く、歳相応に元気でおります。

小林晴吉(三六)

今年八月にもペンションをやめて札幌へ移住します。十月中以降の予定です。

高嶋正之(三六)

所用があり欠席します。盛会を祈っています。

高林謙次(三六)

当日、所用があり欠席致しますが、栗高さつぽろ会が盛会でありますことを祈念致します。

羽生聖子(三六)

残暑お見舞い申し上げます。皆様お元気にお過ごしと思えます。

山崎瑛子(三六)

年齢を実感しながらの毎日でございます。

吉岡一枝(三六)

昨年九月に体調を崩し、殆ど今は通院に費やしている状態です。ゴメンなさい！

千葉敬子(三六)

行事があり欠席させて頂きます。健康管理に気をつけて生活していますが、毎日夜食後三十分歩いてもう二年になります。

ひざの痛みも良くなりました。何事も長く続けることが良い結果となっています。

無理をせず、自分に合った健康管理をしようと思っています。

羽田淳一(三六)

栗高さつぽろ会のお世話係の人には感謝しております。

水橋サチ子(三六)

予定が先に入っていて申し訳ありませんが欠席です。ママさんバレーは、しんどいですが、歳下の仲間とまだ楽しんでいます。

猪熊輝夫(二七)

保護司としてお手伝いして居ます。

大地満代(二七)

後期高齢者になってからは、一層健康に気をつけて日々暮らすようになりました。

今 稔(二七)

今回は私用と日程が重なり、残念ながら欠席します。

山本竹市(三七)

今朝のテレビで、台風10号の接近のニュースをやっていました。超大型の台風だそうです。昨年の台風21号の様な災害が発生しない事を祈るばかりです。

新元号「令和」の時代となりました。その名の通り平和な世の中でありますよう祈ります。

小説「アノロ原野」の在庫が少し残っています。ご希望される方は、090-9754-7279迄ご連絡下さい。

今枝誠二(三七)

今年6/1、6/3、藤枝市でおこなわれたJFA第十三回0-70サッカーオープン大会に北海道代表として参加してきました。全国では、元気の良い七十年代が多いのには驚かされました。体が続く限りは、一勝でも多く勝ちたいと思っています。皆様方も、健康のため体を動かすことを継続して下さい。

小笠原典子(三八)

世の中、自然も人間社会も何が起るか分からない。昨今、自分にもいつ何が起るかも不思議ではないと思うようになりました。健康不安が続きまとい、体調次第ですが、カラオケ、マジック、等を楽しみながら、慎ましく平凡な毎日を過ごしています。

声は出なくなっているのですが、道新ホールで芸術文化劇場の舞台に立つ予定です。

太田直行(三八)

六月に茨城県へひとり旅に出かけました。

動機は、「全国一の不人気県を見てみよう」という「へそ曲がり」の好奇心でした。

まず、鹿島神宮。見上げる巨木群、荘厳・静寂の中に千古のいぶきを感じました。鹿島は剣聖塚原ト伝の生地で、その墓へも足を伸ばしました。

水戸市の偕楽園。有名な梅の木々は、いつばいの実をつけていました。兼六園・後楽園に続き、ようやく日本の三名園を制覇(?)しました。

つくば市では、サイエンス・スクエア・宇宙センター・エキスポセンターなどを巡り、最先端科学の一端に触れました。

そして、つくば山。初めはケーブルカーで男体山(871m)に登り、隣の主峰女体山(877m)からロープウェイで降りる予定でした。しかし、つくば大生らの元気に釣られ、無謀にも歩いて女体山頂へ。岩だらけの山道は険しいうえに、前夜の雨で濡れてしまいました。

途中、何度も挫折しかけました。が、ぐくぐくヒザであえぎながら頂上に立つと、そこには絶景が待っていました。

疲れが吹き飛ぶと同時に、体力にちよびり自信を持ちました。



斉藤厚成(三八)

リタイア後、何もせずにぶらぶらしていたら、今は神様の罰が当たり闘病生活。

皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。

石塚愛子(三八)

ボランティアは、厚別区内の公園・交番の花壇のお花の手入れ・草取りの忙しい日々と、300坪の家庭菜園の野菜・花作りに、毎日汗だくになり、土と草花にいやされております。

昭和三十八年卒の同期会が、六十年近く続いた会も、今年最後の同期会が九月十一日に終えようとしており、来年からさつぽろ会に出席したいと思っています。よろしくお願い致します。

遠藤信夫(三八)

元気にパークゴルフに励んでいます。

丸屋一枝(三九)

病院に定期的に外来！

薬を呑みながら変わらず毎日の生活を過ごしております。

秋には、趣味の大正琴で、地区センターの発表会！そして、老健&老人ホームで、ボランティア演奏会を予定しております。いずれも十月です。皆さんと一緒に頑張つて琴を奏でたいと思っています。

茶木香代子(三九)

母校の様子を懐かしく頂いております。

小畑敏弘(四〇)

毎回ご案内ありがとうございます。
先約があり、欠席させていただきます。

橘 文也(四〇)

私ごときが皆様方と席を同じくすること、僭越でございます。申し訳ありませんが失礼致します。

植村啓子(四二)

今は、週一ですけどプールに行っております。

井上裕幸(四二)

毎年栗山でクラス会で集まっています。いつも14、15名集まります。近況など話し合いながら、楽しい一時を過ごしています。

松原由典(四四)

仕事は、現役で頑張っています。

その他、交通安全協会、協力雇用主会、共同募金等で活動しています。

旅行、ゴルフは、適度にやっています。

堤 益三(四五)

地震で液状化被害が発生した里塚地区では、七月から地盤改良に取りかかり、今は道路、宅地の薬液注入工事が開始しました。

何かと不便な事があり、大変です。

また、近所の住宅解体もあり、家がゆれます。

上仙真由美(四五)

このたび南区澄川に転居しました。

中西晴一(四五)

今回は欠席します。

六十歳で定年退職後、札幌に転居。パートをしながら、六年前から合唱団で歌っています。

9/7、8は、合唱団の参加する「2019北海道のうた」え七十周年記念祭典inさつぽろに参加します。

9/8は、kita大ホールで「大音楽会」を行います。ホールを満員にして歌たいです。

8/7、9長崎で行われた原水爆禁止2019世界大会に参加しました。来年は、広島、長崎被爆七十五年目になります。核兵器をなくし平和な日本、世界をとの思いを強く感じました。

白川洋三(四六)

毎日、一回十五分程度のストレッチ、及び週三日、往復一時間の徒歩通勤でのアルバイトをしています。

三橋愛子(四六)

令和元年の孫、八月二十二日出産予定、六人目ばあばは、忙しい日々です。

下口順子(四七)

自分の遊び、孫の相手等で、すぐに時間が飛んできます。

立秋を過ぎし畑の雨あがり
支柱の先にトンボ休みぬ

山田泰士(四八)

今年も残念ですが、大阪出張のため出席できません。

荒谷眞智子(四八)

九月七日の総会は仕事の為、残念ながら出席出来ません。機会がありましたら、是非参加させていただきたいと思っています。

明石吉弘(五一)

元気でやっております。所用により欠席させていただきます。申し訳ございません。

広瀬浩了(五八)

平成三十一年一月一日より東京本社勤務となりました。総会等の成功をお祈りします。

あとがき



◎ 母校は今年、創立九十周年。昭和四十三年には373名の卒業生を送り出すなど、歴史の重みを感じます。一方、少子化や学区の変更等から、最近は栗高への応募者が大幅に減少。岩見沢方面等への流出が50名余と聞くと、母校の存続が憂慮されます。父母・地域の協力、栗高の努力を切に望むところです。栗高頑張れ！

◎ 地震や台風などの災害が全国で多発おります。被害に遭われた方々には、心からお見舞い申し上げます。日常の備えや災害時の地域における自助・共助を今一度確認しましょう。

◎ さつぽろ会の会員も高齢化が進み、一病息災・介護予防・認知症予防など、ますます身近な問題となっています。皆様のご健康を願っています。